

自己評価結果票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念「笑みがこぼれる家庭・・・それがわたしの誇りです。」基本方針、加古川の目標を掲げて、地域の中で、家庭的な環境の中で規則や時間に縛られることなく自由に暮らすことの支援をしている。		
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入居者の個性を大切にし、暮らしの場所を変わっても、その人らしい生活が続けられるように支援することに努めている。		
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域の住民が運営推進会議へ参加していただけるようになり、ホームで暮らす一人一人が、人らしく暮していくうえで、周りの協力が必要であることを理解していただき、協力していただけるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎日のホーム周辺の清掃をし、その際出会う人には、挨拶をしている。地域の自治会でのふれあい喫茶に出かけていき顔見知りになった。近隣のスーパーや病院で出会って挨拶が交わせるようになった。		
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、地域活動に出向いたり、来てもらったり、交流の場を持つことに努めている。ホームでの餅つき、自治会での餅つき、地元のふれあい喫茶、祭りへの参加 お互いに交流が活発になるように案内をし合っている。自治会で開催する勉強会で認知症についてのお話をし役にたっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近隣の方から、相談が持ち込まれた際には、状況を判断して関係ある支援者に繋げている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、パートナーは、自己評価・第三者評価の意義を十分理解している。評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。昨年度に要改善の項目については、十分に協議し検討し改善できたこともある。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間事業計画・行事計画を配布説明し、家族の参加と協力をお願いしている。第三者評価の取り組みについてもお伝えしている。		
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターと担当者へは、運営推進会議の主旨説明、出席のお願い、案内はしているが、一度も出席はない。行政担当者は、事務連絡のみのである。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業、成年後見制度についての知識はある。ホーム内の勉強会で簡単に学習した。実際に、入居者2名が、成年後見制度を使っている。現在申請中のかたが2名いる。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、高齢者虐待防止関連法について、知識はある。どのような事項が、虐待や拘束にあたるのかも周知している。自宅でのことは不明であるが、ホーム内での虐待が起こることのない指導をしている。本年度ホーム内勉強会でこのテーマに挙げ、皆で考え知識を身につけた。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、契約書・重要事項・個人情報等の書類を細かく説明している。家族様には、契約を結ぶ際に理解と納得をしていただき入居していただいている。		
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者が自発的に、意見、不満、苦情を発言された際には、謙虚に受け止めている。聞いた内容については、家族様へも報告をすることに努めている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「ほおずき便り」定期発行をしている。生活・健康・金銭状況について、職員の異動等をお知らせしている。写真を同封している。健康状態については緊急の際は都度電話連絡をしている。家族が訪問時に、出勤のパートナーが近々の様子をつたえるようにしている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に行われる、運営推進会議(家族会)の中で聞く機会を設けている。面会の際に、家族が気軽に意見や不満をホームに伝えられるような空気を作っている。ホームに言い難い時には、話しを受け入れてくれる外部の窓口もあることは伝えている。家族からの意見を受け、運営に反映させる姿勢は常に持っている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム内でのパートナー会議では、それぞれのアイデアや要望を聞く機会を設けている。個人的には、マイチャレンジを実施しており、各自自己目標を設定して目標達成に向けて、努力している。その際に、管理者と主任とパートナー間で、意見や提案を聞く時間を作っている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務時間帯については、十分に検討して柔軟な対応をしている。加古川については、午後から就寝時間帯にかけてに配置を手厚くしている。病院の受診、外出等事前にわかっている用に対応している。夜勤帯に1名での対応が困難と予測される際には、臨時的に2人夜勤に対応もしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>18</p> <p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動、離職を必要最小限にとは考えているが思うようには行かないのが現実である。多人数が同じ時期に入れ代わることのないように十分気を付けている。入居者の生活状況を細かく伝え、対応が異ならないように努めている。</p>		
5. 人材の育成と支援			
<p>19</p> <p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>本社研修にて、理念や方針、マナー、介護保険の基本的な知識、介護技術等、統一した教育が受けられ充実している。ホーム内での勉強会は、研修委員が年間計画をたて、パートナーが学びたいと思っている内容で勉強会を行ない、資質の向上に努めている。外部の研修にも計画的に参加をしている。定期的に「マイチャレンジ」をもとに個人面接をし、「目標」を設定し、達成に向けて支援している。</p>		
<p>20</p> <p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>2市2町グループホーム協会の中で、3ヶ月に1回のペースで勉強会を開催している。各ホームで抱える入居者さんの生活の問題点などの事例をもとに、多人数からの考えや知恵をもらい、日々の介護の参考にしている。施設見学なども気軽に行っている。</p>		
<p>21</p> <p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>一日の勤務時間のなかで、気分転換をしっかりする時間を(休憩とっている。休暇をきちんと取り、リフレッシュをする環境を取っている。休憩室の整備 介護の専門職として、知識を得るための専門誌等を整えている。特に若いパートナーには、悩みはないか?声をかけている。年に2回ではあるが親睦会をしている。3施設合同のポーリング大会を交流会をした。</p>		
<p>22</p> <p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>マイチャレンジの実施と人事考課にて、個人を評価していただけている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	何が一番困っているか、何が一番不安なことか、何をしてほしいか、本人から十分に聴くことに努めている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	何が一番困っているか、何が一番不安なことか、何をしてほしいか、家族から十分に聴くことに努めている。		
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に来られてから入居に到るまでの間に、落ち着いた生活ができるように支援をしている。その時の状態にあった対応を伝えている。専門医の受診、在宅サービスの利用など。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	空き室のない場合など、隣接のデイサービスを利用していただきホームに慣れてもらうこともしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	常に、共に生活をし喜怒哀楽をともに、人生の大先輩であることを忘れず、入居者から学ぶ姿勢で支えあう関係をこころがけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	常に家族と共に、という気持ちをもっている。家族が入居者を大切に思い続けてもらえるように支えている。		
29	○利用者と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者と家族が離れて生活することで(少し距離を置くこと)お互いを思う気持ちがうまれ、関係が修復されていくことが殆どである。パートナーが間に入って、よい関係が永く保てる支援をしている。		
30	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係が途切れないような支援をしていきたいと思っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者間のトラブルや生活の中でよくある。パートナーは、入居者一人ひとりが孤立せず穏やかに生活できるように、人と人との関係をつなぐ役割に努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後にも、気軽に相談を受ける姿勢であることは、常に伝えている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努めている。本人の思いを聞き、できることは実現させ、できないことには必ずできない理由を伝えている。困難な場合は、家族の希望を聞き、できる限り本人本位になるように検討している。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前後に、本人や家族さまに聞き取りを行うとともに、家族の知っている範囲でこれまでのサービス利用の経過等も聞き取りしている。可能であれば、サービス事業者からの聞き取りも行っている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々必ず声をかけて、心身の状態を把握することに努めている。	
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケース会議を開催する事前に、当日出席できないパートナーよりケース会議参加表を提出してもらい意見やアイデアを聞いている。家族様にも自宅で生活されていた頃のことや習慣などを聞き取り、それを介護計画に反映している。本人にもどうしたいか。を聞いている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画作成時には家族等と面会を実施し、計画を明示した上で見直しをしている。状態変化時には、随時にケース会議が開催され、介護計画の見直しをしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の入居者の生活の様子は、連絡ノートに細かく記入し、それを個別のサービス記録にまとめている。身体・心の変化に気づき個々の記録に記入し、情報の共有に努めている。ユニット会議をすることにより、ケアに差異がないように努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族さまよりの要望には、できる限りに応じる努力はしている。ボランティア、外部のサービスを利用、家族の協力を得ながら個々の支援に努めている。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員やボランティアの協力をいただき、日常生活のうえでの支援を受けている。警察、消防、学校にも定期的に伺い、訪問いただき支援を受けている。		
41 ○他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて対応はしたいと思う。現在のところは行っていない。権利擁護のシステム、当ホームの担当地域包括支援センターがどこかは把握している。現在のところは行っていない。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて対応はしたいと思う。現在のところは行っていない。権利擁護のシステム、当ホームの担当地域包括支援センターがどこかは把握している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本は、入居前よりのかかりつけ医を大切にしている。本人や家族の希望を十分に聞きかかりつけ医を決めている。開業医の為、入院が必要な場合も安心できる病院を紹介していただいている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医(協力病院)の専門は、脳神経外科である。定期的な画像診断や本人との面談にて治療を受けられるようにしている。必要な際の薬の処方や調整もいただいている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	隣接するデイサービスの看護師、かかりつけ医の看護師、訪問看護師が気軽に相談に乗っていただける。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院を余儀なくされた場合、入院期間中にできる限りの訪問をしている。回復の状況を細かく聞き、ホームでの対応ができるまで回復した場合、早急に退院を受け入れることに努めている。認知症の状態を細かく伝えて、入院生活に支障がないように情報を提供している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人の希望を聞いたり、家族の希望を聞きとりを勧めてはいるが、全員の方にはできていない。現在すでに重度化している方の家族様とは何度も話し合いを持ち、方針を決定しパートナーも共有している。終末期ケアについての同意書や関係機関との連携を進めている。近いうちに個々との取り交わしをしたいと考えている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所での「できること・できないこと」を明確にしている。できないところのサポートが協力の得られるかどうか、かかりつけ医や訪問看護事業所との連携で支援に取り組んでいる。変化に備えての検討や準備もアドバイスを受けながら行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	当ホームへ入居する際には、個々の状態を良く聞き取り、自宅にある馴染みの品を持ち込むか、持ち込まない等よく話しあっている。混乱を少しでも少なくする為、本人にホームに来ていただき、ここで生活することの説明を十分にしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	パートナーは、入居者一人ひとりの性格や行動を良く知り、声かけの際には、その方に適した会話を心がけている。記録等の個人情報の取り扱いについては十分に注意をしている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	その方の状況に合わせて、表情や話す調子を見ながらゆっくりと話しをしている。自己決定の支援に努めている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	パートナー側の決まりや都合を優先してしまわないように努めている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	定期的に、近隣の行きつけの理美容院へ行き、本人の希望に合わせ、毛染め、パーマ、カットをしてもらっている。体調の悪い方、通うのが困難な方へは、訪問理美容の利用を行っている。洋服や下着は、家族の持ち込みが多いが、自分で気に入った物を買いたい希望がある方には、個別に買い物に行く支援をしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と共に、準備や食事、片付けをしている。片付ける量が多いので、時に苦痛に感じるこゝろがある様で不満を漏らす方もいる。できる方、したい方にはどんどんしてもらっている。		
55 ○利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	病気の悪化になるようなことのない限り、支援している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	パートナーは、入居者それぞれの排泄パターンを知り、それぞれに声かけと誘導を行っている。下着、パンツ式おむつ、パットは、日中と夜間で使い分けている。気持ちよく排泄できるように支援している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴にお手伝いが必要な方、一人で入浴ができる方、それぞれに合わせている。当ホームでは、入浴には、パートナーが必ず見守りをしているため、大半の方の入浴が日中になっている。本人の希望で、完全にひとりで入浴をしている方もいる。夕食後の入浴も支援している。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	お昼寝の習慣や夜更かし、朝寝、それぞれの習慣を大切にしている。灯りや音にも気を付けている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人、一人ひとりのできること・できないこと・好きなこと・嫌いなことを知ることに努めている。家事に関わる役割をもっていただいている。喫茶店にお茶を楽しみに出かけたリ、目的のないお出かけをしたり、気晴らしの支援をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失してしまう可能性もあり、そのことを十分理解していただいたうえで、各自お金を所持していただいている。また、使えるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	各フロアーの入居者の身体状況に合わせて支援している。事業所周辺の掃き掃除をする。買い物にでる。病院の診察券をだしに行く。散歩やドライブにでかけている。一人ひとりその日の希望に添えていないことも多いが、戸外にでかける支援をしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出をする際、特に当てががないときには、入居者に尋ねて希望を聞いている。個々に、自宅やお墓に出かけたい希望は、家族にお願いしている。季節を楽しむ行楽旅行を企画し、入居者・家族・ボランティア・パートナーと出かける楽しむ支援をしている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの電話を自由に使ってもらっている。携帯電話をもっている方もいる(使用方法がわからなくなった際には対応している)手紙のやり取りは、返事を返すことの支援は、依頼があったときに支援はしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地良く過ごしていただける工夫をしている。食事の準備、簡易ベットや寝具を準備していることを伝えている。遠方から帰省した家族の宿泊も受け入れている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者及び全てのパートナーが「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を理解している。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	時にして、必要な際は「かぎ」をかけている。当ホームでは、17:30から翌朝8:30頃までは、フロアの引き戸は施錠している。上記の時間以外は、全部の鍵をかけていない。運営者及び全てのパートナーが、「かぎ」をかけることの弊害を理解している。		
67 ○利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、日勤のフロアーリーダー・夜間は、夜勤者により、安全の確認を行っている。居室にて過ごされているときには、パートナーが訪問したり、夜間に就寝されている際には、小窓より所在の確認をしたりしている。本人が必要ないといわれる方には、嫌がられない程度の所在確認を行っている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	共有部で使う漂白剤等の危険薬剤の保管は、特別行っていない。所定の位置に置くことに努めている。はさみ、つめ切り、包丁等の刃物も所定の位置に保管している。特別に保管場所を決めてはいない。状況に応じての管理は、その都度、緊急の対応は行っている。入居者個人も、その状況に合わせて、必要な品は各自管理していただいている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒→状態に応じて、履物・服装・障害物を検討 窒息→状態に応じて、食事の形態を検討 人間の機能について知り対応 誤薬→取り決めに徹底 行方不明→一人ひとりの状態を認知を十分に知り日々対応している 火災→消防教育を徹底している 今までの経験を活かした取り組みを行っている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	入社時に緊急時マニュアルを配布し、パートナー全員に周知徹底している。地域の消防署で開催される救命救急講習会に各自で参加し、各自レベルアップに努めている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の避難訓練等は定期的に行っている。入居者には、災害時の訓練を行う際は、その必要性を伝えて、皆で真剣に取り組んでいる。地域の協力については、運営推進会議の開催をきっかけに少しずつ働きかけているところである。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時には、一人ひとりが抱えるリスクについて、予測される事は全て説明している。生活をしていく中で、変化していくリスクをその都度説明している。例:ベットからの転落の危険がある方には・床に予防的にマットを敷く。抑制のない対応策をとる話し合いをしている。家族様の要望や本人の要望は必ず聞いている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化や異変を発見した際は、その日のフロアーリーダーに報告して主任や管理者に必ず報告があるようにしている。早急に解決が必要な事については、その場で対応している。ケース会議では、気づいたことをパートナーが発言して検討し対応に結び付けている。		
74 ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の服薬情報は、全てのパートナーが把握している。薬が変更になった際は、その都度申し送りを徹底している。その方の状態に合わせて、手渡し、見守り、介助をして支援をしている。定期的に主治医に状態を報告して、薬の調整をしていただいている。		
75 ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事の材料にも、食物繊維等の便通を良くする食材を取るように十分に気をつけている。毎朝のヨーグルト、牛乳、水分を十分に摂ることに努めている。毎朝のラジオ体操、自転車こぎを行っている。散歩、掃除、洗濯干し・日常のなかで身体を動かしている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食事後には、毎回口腔ケアを行っている。自力可能な方、見守り、介助 その方の状態に合わせて行っている。協力病院の歯科に定期的なケアや治療をしていただいている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事委員が中心となり、入居者の希望を聞きながらメニューを考えている。旬の野菜や魚を取り入れた献立を考えている。食事・水分共に摂取量のチェックをしている。個人の状態に合わせて、魚の骨を除いたり、刻んだり、とろみをつけたりの対応をしている。カレーやシチューを好まない方には、肉じゃがにするなどしている。嚥下障害の方へは個別の対応をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している (インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成しており、対応方法を徹底している。新人パートナーには、入社時に教育している。ホーム内会議や研修、本社研修でも取り上げている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日の生活の中での手洗い・うがいの習慣がついている。台所内の衛生管理は、まな板・布巾などは消毒を行っている。食材については、毎日近くの市場より新鮮なものを購入している。食事委員さんより、定期的に指導がある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホーム前が交通量の多い幹線道路で非常に危険である。出入りには十分な注意が必要とされる。玄関や庭周辺には、花を咲かせて道行く方に楽しんでいただけるように工夫している。玄関植え込みに、掲示板を設置した。ホームでの行事案内などをお知らせし、興味を持っていただける取り組みをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間 (玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等) は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや音楽の音量調整・外からの差し込む光はカーテンやすだれで防ぐ等の配慮をしている。季節の花や観葉植物を飾ったり、外出した際の思い出の写真を飾ったりして、居心地良く過ごせる工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有部には、ソファ、和室があり、離れたところで一人静かに過ごせる場所はある。本棚には、雑誌や単行本が置いてあり自由に貸し出しされている。観葉植物や花を飾り季節感を取り入れている。中庭、ベランダにベンチを置き過ごせるスペースがある。中庭には草木や花、野菜を栽培している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>必要な家具や身の回り品は整っている。使い慣れたものや好みのものであるかは定かではない。皆それなりに居心地は良いのではないかと思う。</p>		
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>換気には十分気をつけている。温度調節は、体感に頼らず室内の温度計もみながら調節をしている。人それぞれに(暑がり、寒がり)着類でも調整している。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>段差、障害になるようなものがないようには造られている。歩行が不安定になったり、車椅子を使うようになっても、移動がスムーズにできる広さに造られている。廊下の手すり取り付け等、必要になった際、又、安全に生活できるように後付けで整備を行っている。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>できること、できにくいこと、好きなこと、嫌いなこと等をパートナーがよく観察し、得意なところで力を活かせる工夫をしている。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>中庭・畑がある。野菜や花を育てている。水遣り、草引き、掃き掃除がいつでもできるように道具をそろえている。ベンチを置いている。室内から見えるところに洗濯の物干しを置き、天候や時間で取り入れなどが自らしていただけようにしている。</p>		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所の番号の前に○印をつけてください)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所の番号の前に○印をつけてください)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者とじっくりと向き合い「その人らしさ」を追及する努力を惜しまない取り組み。一人ひとりのプライバシーや羞恥心、自尊心に配慮すると共に、個々のペースやその日のペースや状態に合わせた支援を心がけている。入居者の個性を大切に、共に助け合いながら暮らせる支援をしている。健康面に関して、朝のラジオ体操、食事前の口腔体操、午後からの健康体操を、入居者、パートナー共に目的を持って取り組んでいる。地域の住民の皆さんに、「認知症」を理解していただき住み良い街づくりのお手伝いをしている。季節の行事を開催した際、地域の皆さんと共に楽しんでいただけるようにしている。